

第2期研修生現況報告〔1班〕

仲良く しましょう

Let's be friends [英語]

साथी साथी दोस्तो [ネパール語]

サティ サティ バノン
friend friend lets be

MA PEN PUEN KAN MAI [タイ語]

MA PEN PUEN KAN MAI [タイ語]
MAGING MAGKAIBIGAN NAWA TAYO [タガログ語]

PHD LETTER

No. 9 発行 1983年12月1日

編集発行 財団法人 PHD協会
〒650 神戸市中央区元町通 5-2-3
甲南サンシティ元町ビル 7F
電話 神戸078-351-4892
郵便振替 神戸9-23625 PHD基金事務局
定価100円 印刷所 マルニ出版印刷

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、昭和56年(1981)からはじめられました。

人生の先輩から学んでおもしろい生活をしよう!!

岩村昇

兵庫県三木市に住まわせたおかげで、三年になるが、私は御近所の皆さまのおかげには一向に立って居る。

にもおかわらず、PHD運動の為に、三木市青年会幹事の皆さまは、手づくり・リサイクル(廃物利用)のバザーでの売り上げを、PHD基金にお寄せ下さり、三木市志染町自由ヶ丘老人会婦人部の皆さまは、一月募金を一回、二回、三回と続けて、PHD研修生の費用にお寄せ下さって居る。本当に感謝である。

他市町村、他府県からも、浄財をお寄せ下さる中に、手づくり・リサイクルのバザーで一月募金が含まれて居る度に、私は「日本はよみがえりつつある!!」と感激して居る。ごちとて捨てられて居た廃物をもう一たび活かしてリサイクルし、引き出しの中で忘れられて居る一円を集めて「アジア・南太平洋の草の根の人達の為に役立てることから生まれる!!」「僕の手は悪徳、節約は美德!!」こうしたPHD運動がつつまは、日本は救われる!!

三木市では、以前から人生の先輩が人生の後輩に染織工、竹細工など手づくりの技を教えるボランティア運動があった。それがPHD運動に参加するとこのリサイクル・バザーに活かされ、一月募金にもつながらた。青年会幹事の皆さま即ち人生の先輩を仲立ちにして、老人会即ち人生の先輩と、子供会即ち人生の後輩との間に村話か壺かになり、女連が厚くなった。他市町村、他府県でも同じことが起きて居ることを願う。

アジア、南太平洋の草の根の人達の為に10パーセントを献げるPHD運動が、日本の中で、私と貴方の身の周りに新しい人間関係をつくらせて行く!!

最後におねがひ:今ネパールから来て居りますPHD第二期婦人研修生が、綿物袋、ミシン又簡単な足踏式織物器、男子研修生が単眼光学顕微鏡(油浸レンズつき)太陽光線灯などの、夫々教台ついで持った帰国を志して居ります。これも古い物で結構です。御褒めいただきたく存じます。



○鳥取県青江町 日曜学校にて子供達と歌われる岩村先生
Dr. IWAMURA singing with participating children at Sunday school, Aoe, Tottori

会員ご加入のご報告とお願い

PHD会員制の趣旨にご賛同いただき、ご加入いただきました皆様には厚くお礼を申し上げます。昭和56年6月から8月までの3か月間のご加入状況は本紙8号で報告いたしました。9月、10月の新入会員数は下記のとおりです。会員制発足当初、協会とご加入の方との調整が不十分でしたので、既報(No.8)の加入者数と若干異なっております。

	昭58.6月~8月	9月	10月	合計
終身維持会員	21	5	2	28
PHD会員	295	35	74	404
友の会員	586	85	144	815

PHD協会では、会費と一般寄付につきまして、つきのように事務処理をさせていただくことになりましたので、よろしくお願いたします。
1. 会員会費の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までといたします。

2. 会員としてご指定のないご寄付は一般寄付扱いとさせていただきます。
3. すでに会費を収められた方の同一年度内の2回目以降のご寄付は一般寄付とさせていただきます。
4. 終身維持会員、PHD会員のお申込の際の会費の端数額は一般寄付扱いとさせていただきます。

PHD会員制のご案内

入会: PHD運動に賛同し、入会申込書と会費をPHD協会にて提出されると、信仰、思想、信条に関係なくとも会員になっていただけます。
会員: (1) PHDについての講演会、セミナー、研修会等に出席して意見を述べ、活動に参加願います。
(2) PHD協会機関誌「PHD」(年1回発行)及び「PHD-LETTER」(年4回発行)などの刊行物をお読みいただけます。
会費: (1) PHD終身維持会員 一口 100,000円
(2) PHD会員 年額一口 5,000円
(3) PHD友の会会員 任意の額(年額500円以上)
◎ 詳しい資料はPHD協会までご請求ください。

I 集団生活研修

去る8月29日から9月11日までの2週間、兵庫県多紀郡篠山町のたんば農文塾で、西南女学院短大の西沢忠秋先生を舎監にお迎えして、PHD協会職員、ボランティアの人々と共に、自炊による集団生活合宿を行いました。

日本の食事や生活習慣に慣れてもらうことが主な目的でした。研修内容は、下記の通りです。地元の方々に講師にお迎えし、ご指導頂きました。研修生から学ぶことも沢山あり、「共に学ぶ」姿勢でこれからの研修をお世話したいと思います。(増岡)

(研修内容)

- 生活オリエンテーション
- 農業見学
- 茶道、生け花
- 日本について(講義)
- 後川小学校訪問
- 篠山保健所見学
- 日本の歌
- 編物、和裁
- 篠山歴史美術館訪問
- 婦人会との交流
- 丹波篠山について



〈農文塾〉 1983年9月 朝の体操(みんなバラバラです)
Morning exercise

II 日本での生活にもなれて来ました。

サンバさん

ホストファミリー 原 久一さん 兵庫県丹南町
ホストファミリー 野田 泰弘さん 明石市

9月は原さん、10月は野田さんのお宅でお世話になりました。指圧の研修に備えての日本語学習が主な目的です。それまで英語に頼りがちなサンバさんでしたが、先日私が英語で話すと「日本語で話して下さい」と言う程になりました。来日当初は日本食が苦手で腹の痛むこともしばしばでしたが、今では大丈夫のようです。日本で一生懸命勉強してネパールの村々を廻って村人たちを助けるのだ、と張切っています。原さん、野田さん宅のお子さんを見て、ネパールの自分のこども達のことを思い出さうです。サンバさんの部屋をのぞくと、日本の童話をノートに写してありました。

サンバさんとは食事の後、1、2時間、家族で楽しんでおしゃべりをします。食事の時、彼はいつも「おいしい」と言ってくれます。本当においしいのかどうかは疑問ですが、少し太ってきたので信じる事にしました。それから彼は常にDifficultを連発しますので、子供達まで、この言葉を覚えてしまいました。



〈サヒーさん〉 1983年10月
湊川女子短大にて 藤あみの実習 Trial on rattan craft at Minatogawa Women's Junior College

ラダさん

ホストファミリー 酒木 章二さん 姫路市

機械編み、洋裁、手編みの3つの教室に通い、酒木さん宅に帰ってからも熱心に励んでいます。ちょっとハードではないかと思ったりもしますが、彼女としては、日本にいる間にできる限りのことを吸収しようと、意欲的で、バスや電車で移動するときも、編み物をしたり、日本語の単語を覚えようとしています。日本人が車中で居眠りすることが不思議なようです。最近では少しでも長く日本にいて、研修したいと言っています。

ラダさんは熱心に覚えておられます。生活にも少し慣れて来たようですが、食事はいまだになれないようで、カレー風になれば食べますが日本風な食事はいっとうに食べようとしません。



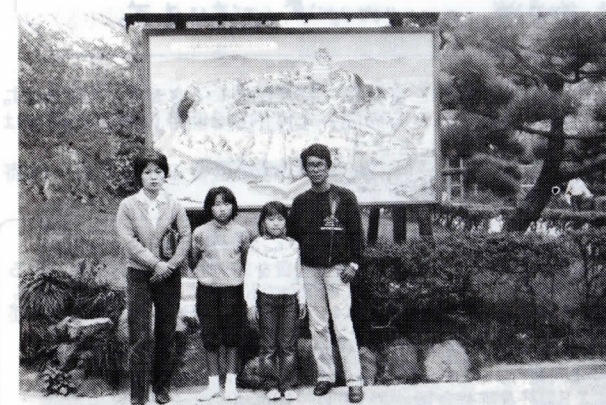
〈ラダーさん〉 1983年10月
姫路のお祭りの日、酒木さんの娘さんたちと共に
Enjoy autumn festival, Himeji with Sakaki Family

サヒーさん

ホストファミリー 岩下 富子さん 兵庫県篠山町

ご主人や1人息子さんを亡くしているサヒーさんですが、日本では素敵なお母さん(岩下さん)や多くの友達に囲まれてとても幸せで、時々ネパールのことを忘れてしまうと述べています。「日本にやって来たのは、見物ではなく、新しい編み物や手芸の技術を習得するため、帰国後は多くのの人々に、その技術を伝えなければなりません」と日本での研修に責任を感じているようです。多紀郡を中心に大阪へも研修に出かけています。日本の冬はネパールと比べて、とても寒いと聞かされ心配しています。

サヒーさんはとても優しく思いやり深い方です。岩下さんのご感想 彼女の心柄に魅せられた人達の出会いが次々と広がり、深まっています。篠山の厳しい寒さにダウンされましたが、もう元気です。言葉の壁も彼女の直観力、語学力、お互いの心で克服されて、毎日笑いが絶えません。



〈サンバさん〉 1983年10月
大阪城にて 野田さんの家族と共に
At the Osaka castle with Noda Family

ようこそ！第2期生〔2班〕

来年(昭59)2月来日予定だった2班の研修生3名が研修プログラムの関係で今年12月上旬にやってきます。3人とも農業が研修テーマです。寒い季節の到着で、特にフィリピンの2人はびっくりすることと思います。日本語学習の後、日本の農事暦に合わせた個別研修に入ります。3人の研修計画内容を御覧になって、何か彼らにとって役立ちそうな情報や研修先などがありましたら是非協会までお知らせ下さい。

3人をご紹介します

- | | |
|------------|--------|
| ① 氏名 | ⑤ 職業 |
| ② 呼び方 | ⑥ 推薦機関 |
| ③ 国籍 | ⑦ 研修内容 |
| ④ 年齢(生年月日) | |

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ① <u>Mr. WILFREDO MERCADO LANIP</u>
ウイルフレド メルカド ラニブ | ① <u>Mr. RENE BRIZ</u>
レネ ブリッツ |
| ② ウィリーさん | ② レネさん |
| ③ フィリピン | ③ フィリピン |
| ④ 24才
(1959年8月19日生) | ④ 23才
(1960年10月26日生) |
| ⑤ 国際稲研究所調査員 | ⑤ 農業 |
| ⑥ フィリピン大学
総合地域保健機関 | ⑥ フィリピン大学
総合地域保健機関 |
| ⑦ 稲作、大豆、野菜 | ⑦ 熱帯果樹、野菜、養鶏 |



- | |
|---|
| ① <u>Mr. BISHNU P. ADHIKARI</u>
ビシュヌ アディカリ |
| ② ビシュヌさん |
| ③ ネパール |
| ④ 31才
(1952年6月18日生) |
| ⑤ 家族計画協会職員 |
| ⑥ 家族計画協会 |
| ⑦ 畜産、果樹、野菜 |



第2期研修生予定表

	サンバさん	サヒーさん	ラダさん	ウィリーさん	レネさん	ビシュヌさん
1983 12月	アジア保健研修所 (愛知県日進町) 臨床検査技術・指圧 兵庫県で保健実習 (明石市野田様宅)	編物・手工芸 (兵庫県多紀郡篠山町 岩下様宅)	編物・手工芸 (姫路市 酒木様宅)	オリエンテーション 神戸YMCA 日本語学習(I) (阪神間ホームステイ) 神戸YMCA 日本語学習(II) 集団生活研修 (神戸市祥龍寺)		
1月	↓	↓	↓			
2月	↓	↓	↓	沖縄県内農業家庭 稲作・野菜	兵庫県内農業家庭 畜産	
3月	↓	↓	↓			

帰国後のPHD第1期研修生

フォローアップ・プログラム

第1期研修生4名が帰国してはや4カ月がたちました。PHD研修生には帰国後4年間のフォローアップがなされます。第1期研修生に対しては既に一部実施されています。日本で学び、体験したことが彼らの村作り役に役立つようPHD協会としてはお手伝いをするわけです。現地側の意見、希望を基本に機具や器材を提供し、さらに日本から専門的技術をもった人をPHDプロモーターとして現地に派遣することを検討中です。

フィリピンのパニサレスさんと

ロサーナさんを訪ねて

10月2日から8日まで第2期2班のフィリピン研修生の来日準備と第1期の2人のフォローのため、現地を訪れました。マニラからバスで南へ2時間弱、フィリピン研修生の推薦機関のあるバイーという町に着きます。ここからトライシクルというサイドカースタイルのタクシーで村に入ります。ロサーナ君の家へ行くのと丁度、彼はアヒルの世話をしていました。彼は日本で農業技術より経営について多くを学んだ様子で、村に適した農業を単一栽培でなく複合的にやることによって、生活の向上をめざしています。まず自分が手本を示したいと言っています。また、豆腐作りを婦人層に伝える計画も着々と進めており、巡回実演講習会を間もなく始めるそうです。豆腐については新研修生のウィリー君に大豆の栽培を覚えてくるよう助言しており、二人組んでの計画になるようです。一方、パニサレスさんは帰国後4.5haの土地を借りてセラピアの養殖池の経営を再開していました。日本での研修の成果を尋ねましたら、稚魚のエサとなるワムシの作り方が役立っており、同業の人々に指導しているそうです。日本での研修

～村づくりへのスタートをきる！～



パニサレスさんの養殖池で 中央 パニサレスさん
その右 ロサーナさん 58.10.6
At Mr. Panisales Fish-Pond, Bay, Laguna

の中心だった淡水海老については、提携を予定していた現地の水産試験場の計画が中断していて、今後の再開を待って試みることで、その際には、エサを日本から取寄せたいことと、日本で教養を乞うた方に現地指導してもらいたいと希望していました。二人共元気にやっていました。(藤野)

▷ネパールからの便り

ネパールのアマティアさん、ビスタさんから日本でお世話になった方々へ手紙が届いています。一部をご紹介します。「帰ってから忙しい毎日です。村の人々に頼りにされ、期待され、自分の時間をもてません。新たに始まったプロジェクトに日本での経験を生かしていきたいです。」(ビスタ) 「帰国直後は方針が定まらず困りましたが、今はニワトリの孵化を中心に仕事を始めています。孵卵器が活躍します。」(アマティア)

PHDサウンド

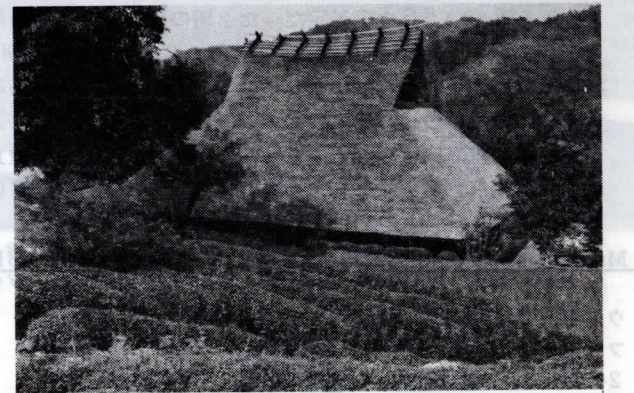
世界のPHD運動 グループ紹介

「たんば農文塾」

モノとカネが幅を利かせるこの国の「今」は「土」から遠ざかることを「高度」とする奇妙な文明観に支配されている、と思われてならない。そうではない生き方があってもいいのではないか、人や自然を育む「土」そのものの意義を生の根源として抱え直すべきではないか、と現代社会のありように時には首をかしげる有志たちによって産声をあげたのが「たんば農文塾」である。発足してはほぼ二年。これから正念場を迎える。

兵庫県篠山町内で旧い茅ぶき農家を確保した。まず私たち自身の修練基地に、というのが目標だった。朽ち果てていた茅ぶき屋根を改修し、内部も繕った。工事の多くは専門家の手に委ねたが、茅などの材料の調達、現地への搬入は呼びかけに快く応じてくれた地元や阪神間の素人集団による努力奉仕、浄財寄金などで賄った。むらとまちの人々が心を結びながら流したこのときの清々しい汗を忘れることはできない。

この基地は一般に公開している。第1、2期のPHD海外研修生も受け入れた。火を起し、薪を燃やして炊事する、自分ごみは自分で処理する…。少し気負っていえば「脱文明」を体験するわけだが、多少の珍しさが手伝ってか、夏を中心に都会からの利用者も増えてはきた。組織的には課題が山積している。これまで世話人以外メンバー



美しく刈り込まれた茶畑が映える、かやぶき屋根のたんば農文塾
Tanba Nobun-Juku, Sasayama, Hyogo

を固定しなかったが、今後は会員制を導入し、会費も徴収して運営基盤を確立することにした。多くの方々の参加を心待ちにしている。

〈たんば農文塾メモ〉 〈事務局=兵庫県多紀郡篠山町役場
総務財政課企画係内(基地利用申し込みもここへ)
〈世話人の顔ぶれ=農家、会社員、公務員、教師、主婦、ほか
〈代表=丘澤佳紀

協会ニュース



§岩村昇先生 第一回アジア・アフリカ賞を受賞

アジア・アフリカ文化財団(東京)が昨年、設立25周年を迎え、アジア・アフリカ地域で活動した埋もれた日本人を顕彰しようと同賞を設置し、その第一回受賞者に郭沫若氏未亡人、折田魏朗氏(シリア在住の家畜衛生専門家)と共に岩村昇先生が選ばれ11月17日授賞式がありました。

同財団は、中国の故郭沫若氏の滞日中の蔵書をもとに発足したものです。

§1983年度基金寄託状況の中間報告(4.1~10.31)

(収入) 寄付金(会員費含む)	¥ 17,591,233 -
ポトピア81記念財団より 基本財産助成金	¥ 37,000,000 -
	¥ 54,591,233 -
(支出) PHD研修事業及び運営費	¥ 20,865,108 -
	¥ 33,726,125 -
(剰収支) PHD協会 基本財産	¥ 30,000,000 -
〃 信託・定期預金	¥ 23,530,000 -

PHD協会では当面3億円の基本財産積み立てを目標として会員ご加入やご寄付をお願いしております。



草の根交差 (その三)

〈ダルマコパニ〉

人間が生きてゆく源ともいえる「水」ネパールの山地では水汲みが一日の仕事の大切な一部となっています。主に女性の役目となっていますが、彼女達はそのために驚く程遠くまで出かけます。

水汲みの場所は、山から流れてくる細い川であったり、平地の大きな川であったりします。しかも、苦勞して一生懸命運んだ水が、一日におずか、かめ3杯分といった具合です。水汲みが重労働であり、一滴の水の貴重さを想像できます。

このように苦勞して運んだ水を今度は、山道を行く旅人の為にし出すのです。つまり、旅人用として山の斜面に小さな穴を掘って埋めてあるかめに運んできた水をためておくわけです。

これは「ダルマコパニ」と呼ばれていて、語源には宗教的な意味があるそうです。見知らぬ旅人へ命の水を用意する尊い精神ですね。岩村先生の講演の中で最も人々の胸を打つ若者の話—ある若者が3日ばかりで老婆を病院まで運び、体力のおすそわけをしたということ—といい、このダルマコパニといい、現地における spirit for othersは「生きるとは分かちあうこと」をひしひしと感じさせます。まさに人間としての原点、生きる原点だと思います。そして、豊かで便利な社会にどっぷりつかっている私たち日本人……何か深く考えさせられますね。



§パソコンさん!

日本のどこかで仮眠中のパーソナル・コンピュータ様。PHD協会ではあなたの迅速、精確な能力に期待しております。(注)メーカー、機種不問、専門家待機中。

§年末PHD献金のお願ひ

出費のかさむ年末でございますが、ご協力をお願い申し上げます。献金のお願ひと新入会員のご芳名は別紙に載せました。

← §PHD農場だより

秋晴れの1日、ブラジル留学生も加わっての楽しい稲刈り風景。お問合せ先 〒561 豊中市上津島2-16-24 南田慶治